



大学図書館問題研究会京都ワンディセミナーのご案内

「図書館・図書館員のための Web の情報発信」(岡本 真氏)

世はインターネット全盛時代。Web には、個人や組織による様々なホームページが存在し、たくさんの方が溢れています。そして図書館には、利用者と情報を結びつける役割とともに、自ら情報を発信する機能がいつそう求められてきています。

今回の京都ワンディセミナーでは、インターネットによる学術情報発信をテーマにしたメールマガジン「ACADEMIC RESOURCE GUIDE」を発行し、図書館の機能についても提言されている岡本真さんをお招きします。図書館そして図書館員にとってのインターネット上の情報発信のあり方について、いっしょに考えてみませんか。

日時：2006年9月23日(土) 13:30~16:40 (13:15~受付開始)

場所：国際交流会館第1・2会議室 (TEL:075-252-3010)

京都市左京区粟田口鳥居町2番地の1(市営地下鉄蹴上駅から徒歩6分)

(アクセスマップは8ページをご覧ください。)

参加費：大図研会員は無料 / 非会員は500円

- * 終了後、懇親会を予定しております。
- * 当日のスケジュールは、後日ご案内を郵送致します。

◆申込方法

(1)お名前、(2)ご所属、(3)大図研の会員であるか否か、(4) E-mail、(5)懇親会参加の有無をご記入の上、下記いずれかの方法でお申込み下さい。

・京都支部 Web サイトからのお申込みは

<http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/index.htm> から。

・E-mail でのお申込みは 支部委員会(dtkk@rg7.so-net.ne.jp)宛に。

・FAX でのお申込みは 支部委員 渡邊伸彦(FAX: 075-761-0692)宛に。

[目次]

大学図書館問題研究会京都ワンディセミナーのご案内	...	1
京都ワンディセミナー「大学図書館を使う! :日本と海外」参加レポート	...	2
続京大図書館史こぼれ話 第五回	...	3
支部委員挨拶	...	5

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：dtkk@rg7.so-net.ne.jp (大学図書館問題研究会京都支部)

URL：<http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/index.htm>

京都ワンディセミナー「大学図書館を使う! :日本と海外」参加レポート

野間口 真裕

暑くなりはじめの5月20日、京都ワンディセミナーに参加させていただきました。セミナーは「大学図書館を使う! :日本と海外」と銘打たれ、三部構成からなっており、李明剛氏の「大学図書館での体験 - 日中米の比較 -」、富岡達治氏・原竹留美子氏・渡邊英理子氏の「見える図書館サービス (オーストラリアの事例紹介)」、辰野直子氏の「ヨーロッパの大学図書館-情報リテラシー教育を中心として-」というタイトルで、海外から来られた方がみる日本の図書館、日本から行かれた方々がみられた海外の図書館とそれぞれどちらの視点も非常に興味深い内容でとても勉強になりました。

李氏の発表では中国の北京大学図書館、アメリカのオハイオ州立大学図書館、コロンバス市立図書館、日本の国際日本文化研究センター図書館の特徴的なサービスや気付いた点を紹介してくださいました。配架方式、閲覧・貸出条件、コレクション、ILLサービスについて図書館ごとの違った事例をお聞きしていると利用者本位のサービス、つまり、多くの人間に開放されていることや必要な資料が必要なタイミングで手に入ること、親切で丁寧なサービスなどが今さらながら重要であると再認識することができました。印象的だったのが貸出冊数や貸出期間についてのお話で中国では10冊1ヶ月以内で厳しかったと話しておられたところで、日本の図書館については触れておられませんが、おそらく国際日本文化研究センター図書館が特別であり(後で確認したところ研究員・OBOGを除くセンター構成員であれば図書100冊6ヶ月以内・製本雑誌5冊1週間以内)、日本の他図書館での利用も同じような水準にあると思います。利用者・研究者のニーズに答えるためにはもっと緩やかな貸出条件を探っていないといけないと感じました。

富岡氏、原竹氏、渡邊氏はそれぞれ違った角度からオーストラリアのクイーンズランド工科大学、クイーンズランド大学での研修について紹介してくださいました。富岡氏は研修全体の話と企画・広報の紹介、原竹氏はクイーンズ工科大学でのレファレンスサービス「Need help? Ask a Librarian」の紹介、渡邊氏はWebサービスの紹介をしてくださいました。印象的だったのはクイーンズランド工科大学でヴァーチャル・レファレンスサービスがとても充実していたことです。Web Chat形式(Webを通じてリアルタイムに文字ベースの会話を行う形式)だけでなく、Voice Conversation形式(MSN Live Messengerを使ってオンラインで音声、画像をやりとりする形式)でのレファレンスサービスを開始するとのお話(2006年8月1日開始済)で、ヴァーチャル・レファレンスが技術的にもフェイス・トゥ・フェイスに迫ってきていると実感させられました。原竹氏も「デジタルコンテンツ提供の拡大、非来館型利用者の増大に伴って、需要はあるのではないか。」と指摘しており、「図書館サービスの向上に役立つ技術についての知識や導入を常に検討していくことは、重要ではないか」とまとめておられました。正直なところ、アメリカだけでなく、オーストラリアでも実現されているサービスが日本では導入どころか実験もあまりされていないことは不思議な話にも思えます。

辰野氏はヨーロッパの大学図書館における情報リテラシー教育の事例を紹介してくださいました。レファレンス・ライブラリアン=リエゾン・ライブラリアンへの教員の理解、教員との協力体制や多様性あるレベル・主題、方法の紹介をしていただきました。ヨーロッパの大学図書館の情報リテラシー教育への図書館員の参画・協働は非常に充実しており、辰野氏に紹介していただいた通

り『プロジェクトからメインの業務』へ変化している現状を知る事が出来ました。僭越ながら私も前の職場でレファレンス業務に携わっておりましたが、情報リテラシー教育についてはとても辰野氏に紹介いただいたようなプログラムを実施できるような立派な図書館員ではありませんでした。一図書館員としてヨーロッパの大学図書館員に近づくためには個人としての更なる研鑽が必要だと感じました。

三つの発表をお聞きして最終的に感じたことは、図書館は物だけの箱ではなく、やはり人＝サービスもそれと同じように重要であるということです。海外の話をお聞きすると、日本でもできることは数限りなくありました。参加者からの質問で、「自分の図書館でその後実践した事例はありますか」との問いに、富岡氏は広報のポスターをパウチすることや図書館の本を入れる袋を用意しましたとのお答えでした。私も今回のセミナーで学んだ様々な事例を出来る事からひとつずつ、実現していきたいと思います。発表者の皆さま、会場の準備をしていただいた大学図書館問題研究会京都支部の皆さま本当にありがとうございました。

のまぐち まさひろ（京都大学工学研究科地球系図書室）

続京大図書館史こぼれ話 第五回

京大草創期、図書館を巡って起った対立事件 その2

廣庭 基介

湯浅吉郎に関しては著者が『静脩』第37巻第2号（2000年8月）に「京都大学図書館百年—京大草創期の司書たち—」と題して述べました通り、法科大学講師の資格を使用して、図書館の洋書整理を行ったのか、湯浅がエール大学において、ヘブライ文学関係の論文によってPh.D.を取得していたので、法科大学においてヘブライ法などを講じたものか、正確には分かりませんが、図書館開館当初は未だ文科大学が創設されていなかったため、島館長も法科大学助教授の資格を以て図書館長に補されていましたし、この湯浅吉郎と、後に文科大学教授、第4代文学部長、東方文化学院京都研究所（戦後人文科学研究所）初代所長となった狩野直喜の二人は、「法科大学講師を嘱託されていたが、図書整理事務に従事した」と『京都大学付属図書館六十年史』巻末310ページの「旧職員」名簿に注記されています。

このような湯浅を法科大学教官としてここに挙げるのは、少し無理があるかもしれませんが、公式には確かに法科教官に違いないのです。湯浅吉郎は関西文庫協会の第7回例会に招かれて「エール大学の図書館につきて」と題して演説を行ったのです。

そして、この後、明治36年4月12日に京大図書館閲覧室で開催された関西文庫協会第13回例会まで2年近く、例会としては6回分の間、法科教官の協力は中断されてしまったのです。一方で図書館長を罷免せよ、と主張しているのですから、当然のことでしょう。

しかし、明治36年4月12日の協会第13回例会には、勝本勘三郎法科教授が「同人調査」と題して、図書館知識ではなく、刑法上の「初犯」「再犯」の識別方法という法学知識の啓蒙を目的とした講演を行いました。そして、同年6月27日に京都市下京区生祥小学校において開催された同

協会第 14 回例会に出席した池辺義象法科講師が「大宝令について」講演したのが法科教官の最後の協力となった訳です。

因みに、第 3 回、第 4 回の例会が開かれた京都市尊攘堂というのは、明治 20 (1887) 年春にドイツ特命全権公使の職を終えて帰国した長州出身・吉田松陰の愛弟子品川弥次郎が帰国して、京都の高倉通り錦小路上ルの場所に元御所の典薬寮に出仕していた典医^{みずみ}三角氏の 700 坪を買い上げ、その邸宅に吉田松陰以下、維新関係者の遺品、遺墨等を集め、尊攘堂と名付けたもので、明治 36 年に京大本部構内に鉄筋コンクリート造りの建物を建築して、收藏品と共に京大に寄贈するまでは、そこを「旧尊攘堂」と呼んでいたものです。旧尊攘堂は京都商工銀行頭取の田中源太郎が取得して、銀行倶楽部としていました。また、ここで新たに鉄筋コンクリート造の新尊攘堂を京大本部構内に作ったというのは、現在の尊攘堂の位置から約 50 メートル東の位置のことで、その東側には 1925 (大正 14) 年に理学部事務室の鉄筋コンクリート造の建物が、学内を南北に走るメイン道路に面して建てられておりました。尊攘堂の後 (西側) には大正 13 (1924) 年に理学部宇宙物理学教室の天文台付きの建物が建設され、天文台が昭和 2 (1927) 年に現在の東山^{かざん}の花山に移設されるまで、尊攘堂は東と西の両側を理学部の建物に挟まれていた訳です。尊攘堂が現在の位置まで下がったのは 1939 (昭和 14) 年のことで、二代目の附属図書館を新築するための移築でした。理学部の事務室と宇宙物理学教室も附属図書館新築の障害になるので、解体せずにコロに乗せて北部構内に移動して行ったのです。昭和 14、5 年のことでした。

本誌の読者の皆様は勿論御存知ないと思いますが、現在の北部キャンパスは、大正 7 (1918) 年、理学部の動物・植物学教室と地質鉱物学教室が新設されるに当たり、本部構内から今出川通りを隔てた北側にはみ出して行き、その部分を一時「北敷地」と呼んでいましたが、大正 10 年に、新たに農学部を創設する事が決定し、当時、国は国立学校が新築する際には、その土地を地方から寄付されることを原則としていたこともあって、北敷地の東隣と北隣に、京都市から 5 万坪弱の土地を新たに寄付され、農学部創設委員たちが、その土地の広大さに満足して油断している間に、北端を運動グラウンドにとられ、東側の土地を理学部附属植物園にとられ、西側の一部を大学本部の水泳プールにとられ、最初思っていた農学部用の土地は何かと狭くされてしまって農学部の創設当時の教官達を怒らせたものでした。

こうして誕生した北部キャンパスは、寄贈時に、中央と東端に二本の南北に貫通する農道を市民が通過することを条件とされていたので、現在でも徒歩と自転車の市民が通れるようになっています。

(次号につづく)

ひろにわ もとすけ (元京大図書館員)

支部委員挨拶

2006年度の支部委員を務めさせていただく10名より、簡単ながらご挨拶させていただきます。

■赤澤 久弥 (副支部長 / 組織・財政)

今年度、副支部長と組織・財政を担当させていただきます。

さて、今2007年問題として団塊世代の退職に伴うノウハウや経験の継承の問題が言われています。これから退職される方々は何を残していただくのでしょうか？また、図書館員として働く立場は、所謂正職員のみならず、派遣、委託、パートタイマーなど多様化が進んでいます。そして、国立大学の法人化に伴い、もとより少なかった図書館間の人的交流の幅がより狭まる可能性があります。

そうした中、大図研そして京都支部の活動が、世代や立場、組織を超えて、よりよい図書館のあり方を考えるきっかけになればと思います。そこで会員の皆さまには、セミナーや支部報、メーリングリストなどによって、より積極的に支部活動に参加していただくことを目指すとともに、図書館に関わる多くの新たな会員の参加を募りたいと考えます。

あかざわ ひさや (滋賀医科大学附属図書館)

■池田 貴儀 (研究企画、常任委員)

昨年度に引き続き、今年度も支部委員(研究企画)を担当させていただくことになりました、日本原子力研究開発機構の池田です。館種の異なる専門図書館から参加しています。この“異なる”というメリットを活かして、大学図書館とはまた違った視点から色々意見を述べていきたいと思いをします。

また、今年度から大図研の常任委員に就任しました。常任委員会と京都支部委員会との間の意思疎通や情報伝達がスムーズに行えるように努力していくつもりです。微力ながら京都支部の発展に貢献していければと思っています。一年間よろしく申し上げます。

いけだ きよし (日本原子力研究開発機構 研究技術情報部 情報メディア管理課)

■大館 和郎 (支部報編集)

支部報の編集を担当させていただきます。充実した誌面づくりに取り組みたいと思います。また、できるだけたくさんの方に気軽に書いていただけるように工夫してみたいと考えております。この7月に図書館の現場から離れましたが、今までとは違った視点で図書館をとらえられる機会を生かして、誌面づくりに反映させていきたいと思っています。

おおだて かずお (京都学園大学教務課)

■大綱 浩一 (HP と ML / 組織・財政、全国委員)

2005 年度に続き 2006 年度の支部委員を務めます、京都大学附属図書館の大綱浩一です。こんにちは。ホームページとメーリングリスト、組織・財政を担当します。1 年間どうぞよろしくお願いいたします。ようやく 7 月 31 日に支部のホームページ

(<http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/index.htm>)をリニューアルしましたので、一度ご覧いただければと思います。引き続き支部活動に関する情報の公開に努めたいと思います。

おおつな こういち (京都大学附属図書館)

■坂本 拓 (支部報印刷と発送 / メールマガジン / HP と ML)

今年の 4 月より、京都大学文学研究科図書館で整理掛をしている坂本と申します。この度、大図研京都支部委員の一員に新たに追加いただくことになりました。私は自分の興味のあることのみ没入しがちなので、支部委員の仕事を通して今日の図書館界の様々な現場の問題に触れ、そこからできる限りは幅広い視野を身につけることで、ライブラリアンとして自分がしなければならないことを考えていきたいと思っております。まだまだ未熟極まりない私ですが、支部委員としての役割を全うできるよう、精進していきたく思います。

さかもと たく (京都大学文学研究科図書館)

■進藤 達郎 (メールマガジン / 研究企画 / 支部報編集)

滋賀大学附属図書館教育学部分館の進藤です。今年度も引き続き支部委員として活動させていただくことになりました。大図研に入ってから、もう 3 年が経ちました。短くはない期間ですが、その間に何ができたかと考えると、当初に期待したほどのことはできていないなあというのが正直なところです。今年度は、胸を張って頑張りましたといえるくらいの活動を行いたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

しんとう たつろう (滋賀大学附属図書館 教育学部分館)

■辰野 直子 (支部報編集 / 支部報印刷と発送)

昨年度に続き、支部報の編集、印刷と発送を担当致します。図書館員となった年に大図研に入会し(と同時に支部委員を務めさせて頂いてから)、早いもので 3 年が経ちました。これまで、多くの方々と出逢い刺激を受け、大図研の活動を通じて得たものはとても大きいとあらためて実感しています。会員の皆様にもそのように感じて頂けるよう、大図研京都支部が皆様にとって身近な存在となるよう、支部委員として取り組んでいきたいと思っております。今年度もどうぞ宜しくお願い致します。

たつの なおこ (京都大学人間・環境学研究科総合人間学部図書館)

■呑海 沙織 (支部長 / 研究企画)

今年度より、支部長を務めさせていただくこととなりました。大図研に入会させていただいてから、15年、様々な方と出会い、多くの方にいろんなことを教えていただきました。先輩方が培ってこられた大切な伝統を引き継ぎつつ、ほんの少し、新しい風を吹き込むことができればと考えております。今年度は、1) 会員間の交流を深める、2) 透明な支部運営を行う、3) 会費の未納率を下げる、この3つを目標に、がんばりたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

どんかい さおり (奈良女子大学附属図書館)

■若松 克尚 (研究企画)

京都に来て3年目、今年度も京都支部委員を務めさせていただくことになりました、若松です。日々、業務に追われていて、帰宅するとぐったりしているような状況ですが、支部委員としてもがんばって活動していきたいと思います。頼りないかもしれませんが、暖かくみまもってください。

わかまつ かつひさ (京都造形芸術大学芸術文化情報センター)

■渡邊 伸彦 (組織・財政 / 研究企画)

京都大学文学研究科図書館の渡邊です。今年も支部委員を続けさせていただくことになりました。今期も企画と財務をやらさせていただきますので、セミナー企画等への積極的な参加と会費納入の方、よろしくお願い致します。

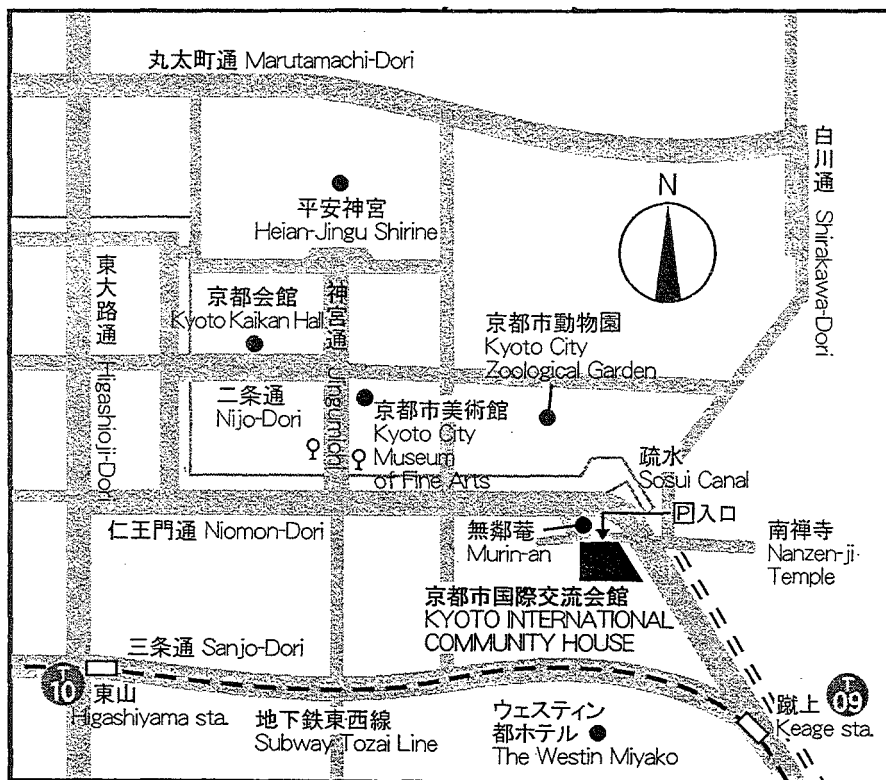
ところで、最近(といってもちょっと前になりますが)気になったCMがサントリー「DAKARA」のCMです。山崎努が(おそらく)十戒のモーゼの扮装をして、大勢の賛同者と共に「わたしの中のよからぬモノが、ジョジョビジョバァ!!!」と叫ぶというシロモノですが、ご覧になりましたか? 特に彼の「ジョジョビジョバァ!!!」の迫力は凄まじく、嵐を呼び天が裂けんばかりの勢いです。私が初めて見たときも、「ああ、この人についていけば、よからぬモノは全て流れるわあ」と思ってしまうくらいでした。それ以来そのCMが流れる度に、つい見入ってしまい、すっかり彼の虜になってしまいました。翻って個性的な人材が多いと言われる図書館業界ですが、残念ながらまだ私はあれほどのカリスマ性(?)を以って先導するような人には出会ったことがありません。まあ、そもそもそんな人が要るのかどうかは別にして、せつかくですから一生に一度くらいはそういう人の周りで「バァー」と叫んでみたいものです。どなたか、そんな圧倒的なカリスマ性を持っている方をご存知でしたら、もしくは我こそは日本の中心で「バァ!!!」と叫んでやる!という勢いをお持ちの方がいらっしゃったら、是非お知らせください。その際には私も DAKARA 片手に馳せ参じますので。(2006.7.27 現在、CMは以下のURLにて公開中です。

<http://www.suntory.co.jp/softdrink/dakara/index.html>

わたなべ のぶひこ (京都大学文学研究科図書館)

「京都ワンディセミナー」会場へのアクセスマップ

「京都市国際交流会館」 <http://www.kcif.or.jp/jp/footer/05.html>



JR京都駅より

地下鉄 烏丸線に乗り「烏丸御池」駅で東西線に乗り換え、「蹴上」駅下車(約15分)、北へ徒歩6分
 市バス ⑤・⑨系統に乗り、「京都美術館前」下車(約25分)、東へ徒歩10分
 タクシー 約25分(4.8km)

三条京阪駅より

地下鉄 東西線に乗り「蹴上」駅下車(約5分)、北へ徒歩6分
 市バス ⑤系統に乗り「京都美術館前」下車(約7分)、東へ徒歩10分
 タクシー 約5分(1.1km)

四条河原町より

市バス ⑤・⑨・⑪系統に乗り、「京都美術館前」下車(約10分)、東へ徒歩10分
 タクシー 約10分(1.9km)

◇ 会費納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

大図研会費および京都支部会費の納入をお願いしているところですが、納入率は依然思わしくない状態にあります。既に2006年度(大図研会計年度2006.07 - 2007.06)に入っておりますので、2006年度の会費の納入をお願い致します。また、2005年度以前の会費をお納めいただけていない会員のみなさま、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願い致します。

会費は、¥7,000(大図研会費：¥5,000+京都支部会費：¥2,000)です。

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員におことづけください。

郵便振替振替口座番号 01090-4-5904

大学図書館問題研究会京都支部

また、ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部 (dtkk@rg7.so-net.ne.jp)、または支部委員(組織・財政担当)の大綱浩一

までお問い合わせください。